

日本財団助成金事業活動報告書

(東日本大震災・津波被害支援)

第1回目

期 日	平成23年4月28日から平成23年5月1日まで
場 所	宮城県石巻市
内 容	被災者のニーズに依る家具やガレキ及び汚泥等の片付け等 (石巻市ボランティアセンターの指示)
参加者	9名
その他	レンタカー2台(2トントラック1台・7人乗バン1台)

行 程

- 4月28日(木) 20時00分、神奈川海難救助隊基地に石巻市現地支援活動隊員と機材等の積み込み手伝い隊員が集合した。前日までに揃えた必要な物資と機材等を2トントラックに積み込む。
21時30分、基地を出発した。湾岸高速道路から東北高速道路と三陸高速道路で石巻市へ向かう。
- 4月29日(金) 3時00分、早朝に専修大学内の石巻市ボランティアセンターに到着し仮眠を取る。
6時00分、テント設営班と炊事班に分かれ手際よく準備をする。朝食をとりボランティアセンター開所時間まで待機する。
9時00分、ボランティアセンター開所受付を済ませ、ニーズ表を受け取り被災者(80歳の女性・一人暮らし)宅へ向かう。
9時45分、家主の要望等を聞き取り、作業を開始する。
14時30分、一日目の作業を終了する。ボランティアセンターへ帰る途中の飲食店で昼食を済ませる。
16時00分、ボランティアセンターに帰着し、作業報告書を作成提出した。
- 4月30日(土) 8時30分、ボランティアセンター開所受付を済ませ、ニーズ表を受け取り被災者(仙台に避難中)宅へ向かう。
9時10分、家主(60歳の女性)が帰宅していたので、家主の要望等を聞き取り、作業を開始する。

13時00分、隊員が100パーセント以上の力を出して作業を行なったので、予定以上に早く作業が終了した。

13時00分、昼食を取らずに石巻港に向かい、今後、当神奈川県海難救助隊が行なえる作業が有るかの確認に行く。破損破壊等がひどく、重機等が必要な専門職的作業となります。当隊員が行なえる作業ではないと思われる。また、市街地の被災状況の詳細確認も行いました。

15時50分、ボランティアセンターに帰着し、作業報告書を作成提出した。

5月 1日(日) 5時00分、起床朝から雨でした。炊事班は朝食の準備にかかる。

7時00分、ボランティアセンター係員に「これから撤収します」との報告をし、この事の上承を得たため、石巻市現地支援活動撤収作業にはいる。

8時00分、全ての後片付けを終了し、帰路につく。三陸高速道路から東北高速道路と首都高速道路で神奈川県海難救助隊基地へ向かう。

15時00分、神奈川県海難救助隊基地に到着する。待機していた隊員と共に、2トントラック荷台の機材等を下ろし片付けをした。

16時30分、全員無事に解散をした。

成 果

1回目の宮城県石巻市大震災復興支援で、被災者宅の破損家財や電気製品及び津波が押し寄せたガレキの撤去等を行なった。この作業で一番成果が出た事はトラックを持ち込んだことである。片付ける物の中には結構重いものが沢山ありました。それを人力で行うには複数人と体力が必要としますが、トラックにその場から沢山の物を積み込み捨て場まで行き、多数人で一気に下ろすことが出来たので効率が非常に上がりました。

また、被災者宅の人と災害以前の風景や地域のお話を聞いたり、津波が押し寄せた恐怖感や今の状況等を隊員全員が聞いたことに依り、被災者の心の中の不安や苦しみ等が少し和らいだと感じました。

感想

第1回目の石巻市現地支援活動を終了しました。神奈川県の方でテレビ等の報道を見てある程度の事を知っていましたが、被災現地に行って見たものは言葉では言い表せない「地域全体が崩壊・破損・破滅・破壊の状態」です。まだ発見されていない被災者が沢山います、目を凝らして川の方を見たり、ガレキの中を必死に見たが見当たりませんでした。被災現地を見ると「凄い・酷い・涙が出る」思いです。今感想文を書いています、被災現地の事を思い出し涙がでます。

これからも、微力ながらも精一杯頑張りたいと思います。被災地の復興支援活動等を行います。

写真集

設営班の野営準備のテント張り



炊事班の食事の準備



後片付け作業



汚泥運搬作業



後片付け作業



この線まで水が上がった (1m50cm)



陸に打ち上げられた船舶



破損した家屋



後片付け作業



他グループも頑張ってます



車もガレキと一緒に



水没した車

